

# 相国寺周辺エリア

～京都御苑・同志社大学・上御靈神社～

## 相国寺境内

相国寺の広々とした境内は、禅寺らしい厳粛な雰囲気に包まれ、東に鴨川を越えて東山連峰を望み、相国寺近傍は境内地と学校施設により構成され、落ち着いた環境を形成している。



広い境内は寺院の大きな建造物が建って落ち着いた環境が形成されている。



東に鴨川を越えて東山連峰を望む。

## 室町通・新町通周辺



町家が多く並ぶ。

- 視点場(境内)
- 視点場(参道等)
- 特に着目する地域
- 特に着目する通り
- (白線) エリアの主な通り

## エリア概要

- 相国寺は、京都御所の北側にゆったりとした境内地を確保していたが、大正初年に同志社大学がこの間隙の土地に立地し、同時に周辺地の市街化も始まっていた。現在、相国寺は境内及び参道、さらに道路を挟んで南側の京都御苑と一体となって、中心市街地の中の貴重なオープンスペースとしての役割を果たしている。
- 相国寺境内は、豊かな樹木が保全されている。参道沿道においても、緑連なる空間が形成されている。
- 緑豊かな落ち着きのある空間相国寺の広々とした境内は禅寺らしい厳粛な雰囲気に包まれ、東に鴨川を越えて遙か東山連峰を望む。相国寺近傍は境内地と学校施設により構成され、落ち着いた環境を形成している。この緑豊かな落ち着きのある空間の保全を図るものとする。
- 境内の空間の確保や緑の保全、参道沿道の緑景観の連続性の保全相国寺境内では、境内の空間の確保や緑の保全に重点を置き、参沿道では、緑景観の連続性の保全に重点を置くものとする



## 烏丸通沿道



中高層建築が多い町並みの中に同志社大学の煉瓦建築が見える。

## 今出川通沿道



御所の緑と呼応した良好な景観

## 相国寺周辺



相国寺と一体となった通り景観

## 御靈神社周辺



御靈神社と一体となった通り景観

## 寺町通沿道



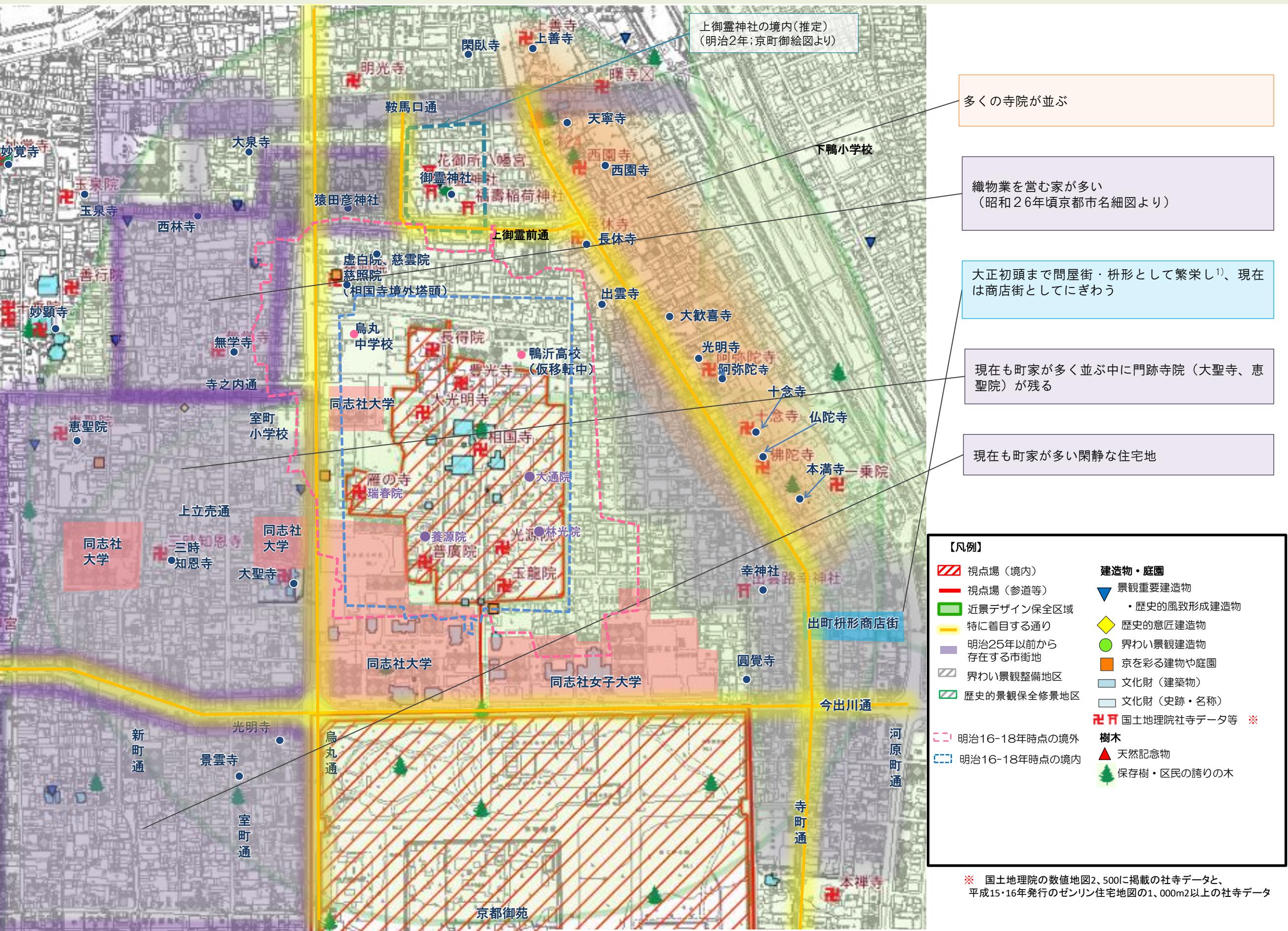
秀吉の都市政策により移転した多くの寺院が並ぶ。

## 相国寺参道

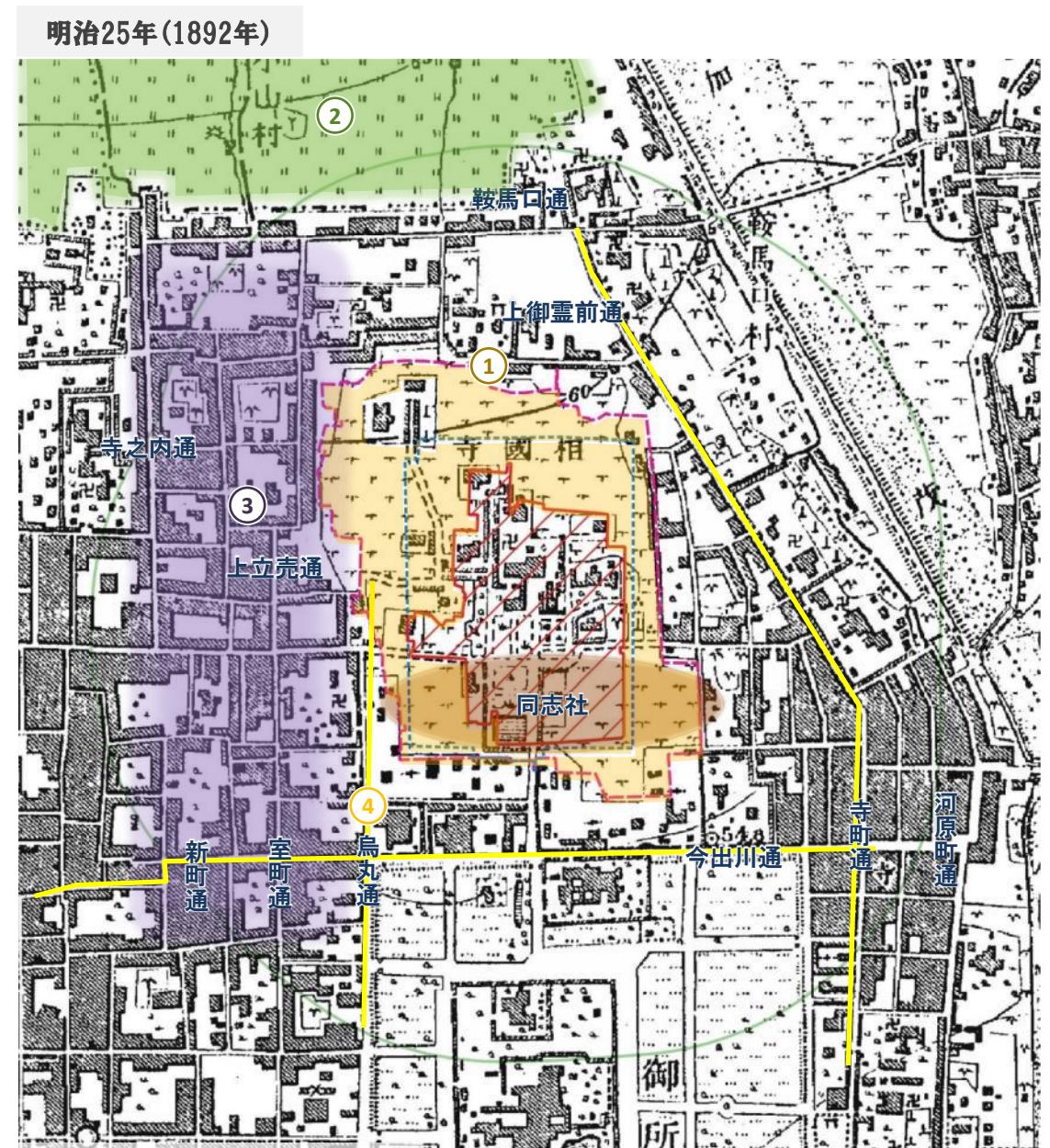
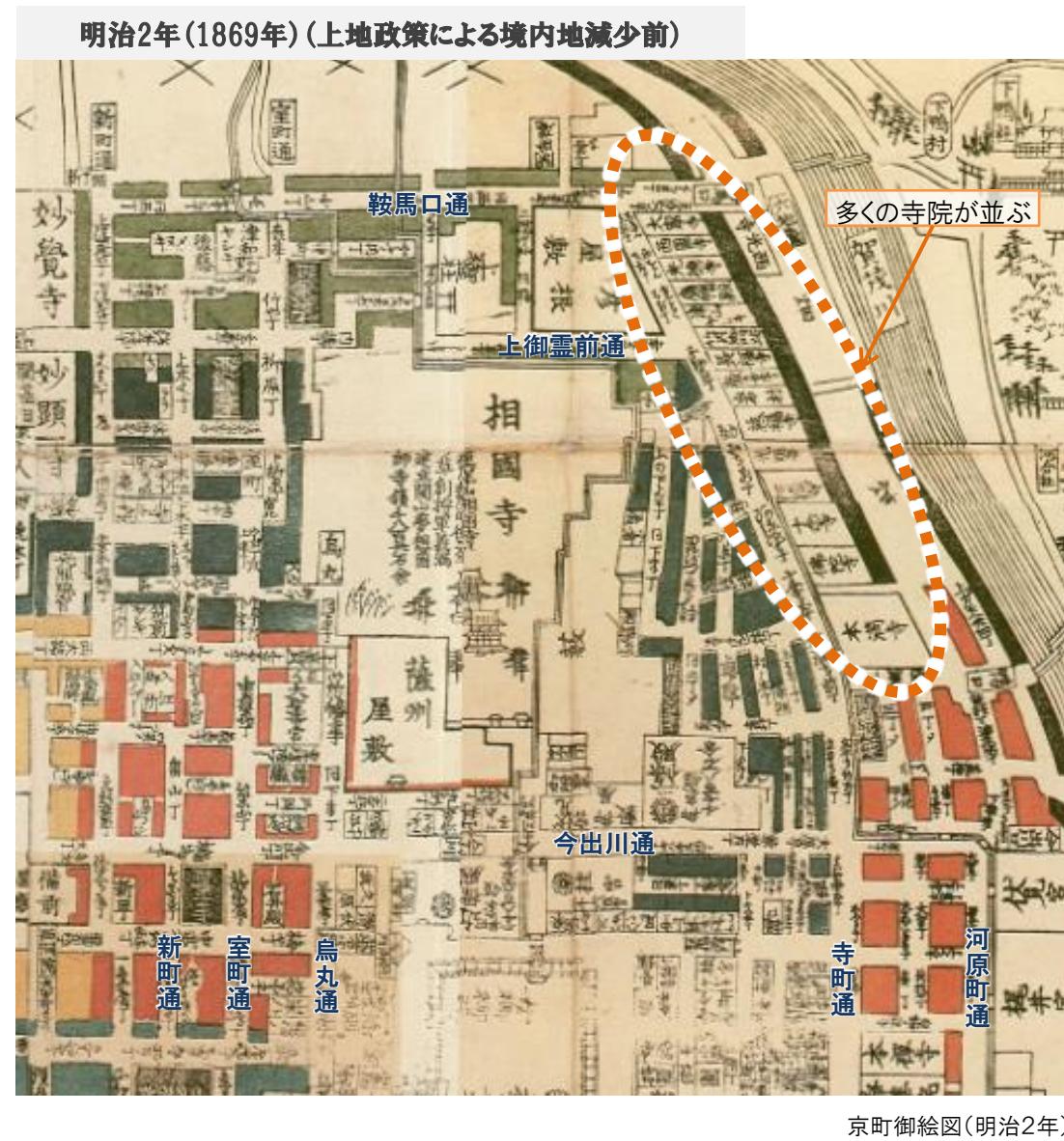


文化財登録されている同志社の煉瓦建築と相国寺が並び、それらを緑がなじませている。

## エリアの概要



# エリアの土地利用の変遷



■ 明治16-18年時点の境外地  
■ 明治16-18年時点の境内地  
■ 近景デザイン保全区域  
■ 視点場（境内）  
— 特に着目する通り

## ① 相国寺の境内・境外

- 明治16-18年には、相国寺の境外地は、西は現在の室町通付近まで、北は上御靈前通辺りまで広がっており、また現在は同志社大学やその他の文教施設となっている土地も、当時は相国寺の境内地・境外地であった箇所が多いことがわかる。
- 相国寺の境内・境外は、建築物と参道部分以外が広く竹藪で覆われている。

## ② 鞍馬口通以北

- 鞍馬口通より北は市街地化しておらず、田園地帯である。

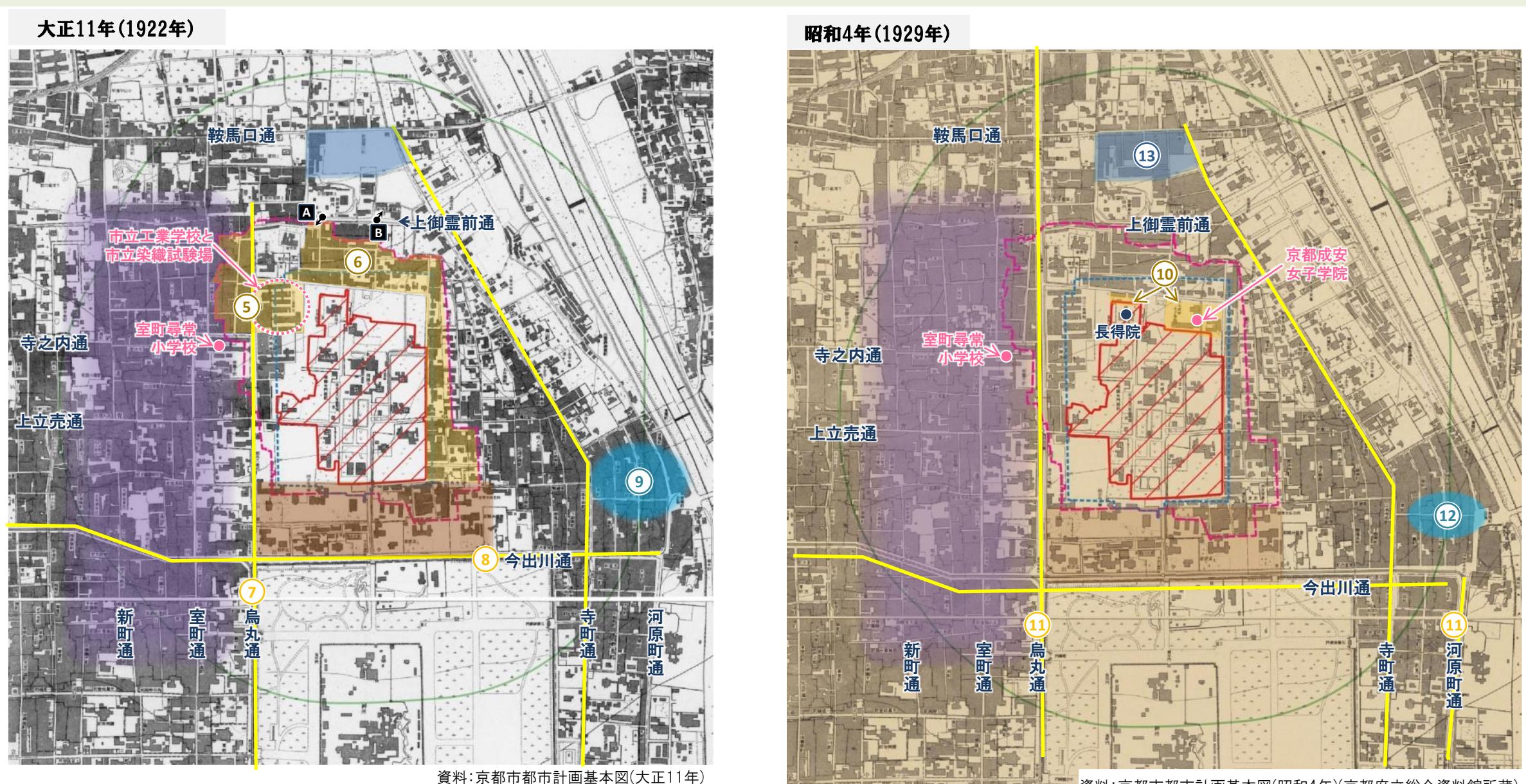
## ③ 新町通・室町通周辺

- 現在も町家が多く残る新町・室町通周辺や寺町通今出川通周辺は既に市街化していることがわかる。

## ④ 烏丸通

- 当時は、烏丸通は上立売通までで、それより北は相国寺の境外地で竹藪となっていた。

# エリアの土地利用の変遷



## ⑤ 相国寺の旧・境内、旧・境外（相国寺北西）

相国寺の北西部に市立工業学校と市立染織試験場が建設されているなど、明治期には境内地だった箇所に建築物が建てられており、周辺部の竹藪の面積が大きく減少した。  
(京都市立染織学校が現・烏丸中学校の敷地に移転（1911年）、市立工業学校に改称（1919年）<sup>2)</sup>)

## ⑥ 相国寺の旧・境内、旧・境外（相国寺北・東）

明治16–18年まで境外地であった相国寺の東側（現在の藪の下町周辺）や御靈神社と相国寺の間（現在の相国寺門前町）に建築物が建ち始めている。現在は、比較的地割が大きい住宅と樹木が、御靈神社と一体的な景観を作り出している。



## ⑦ 烏丸通

烏丸通が上御靈前通まで延伸された。

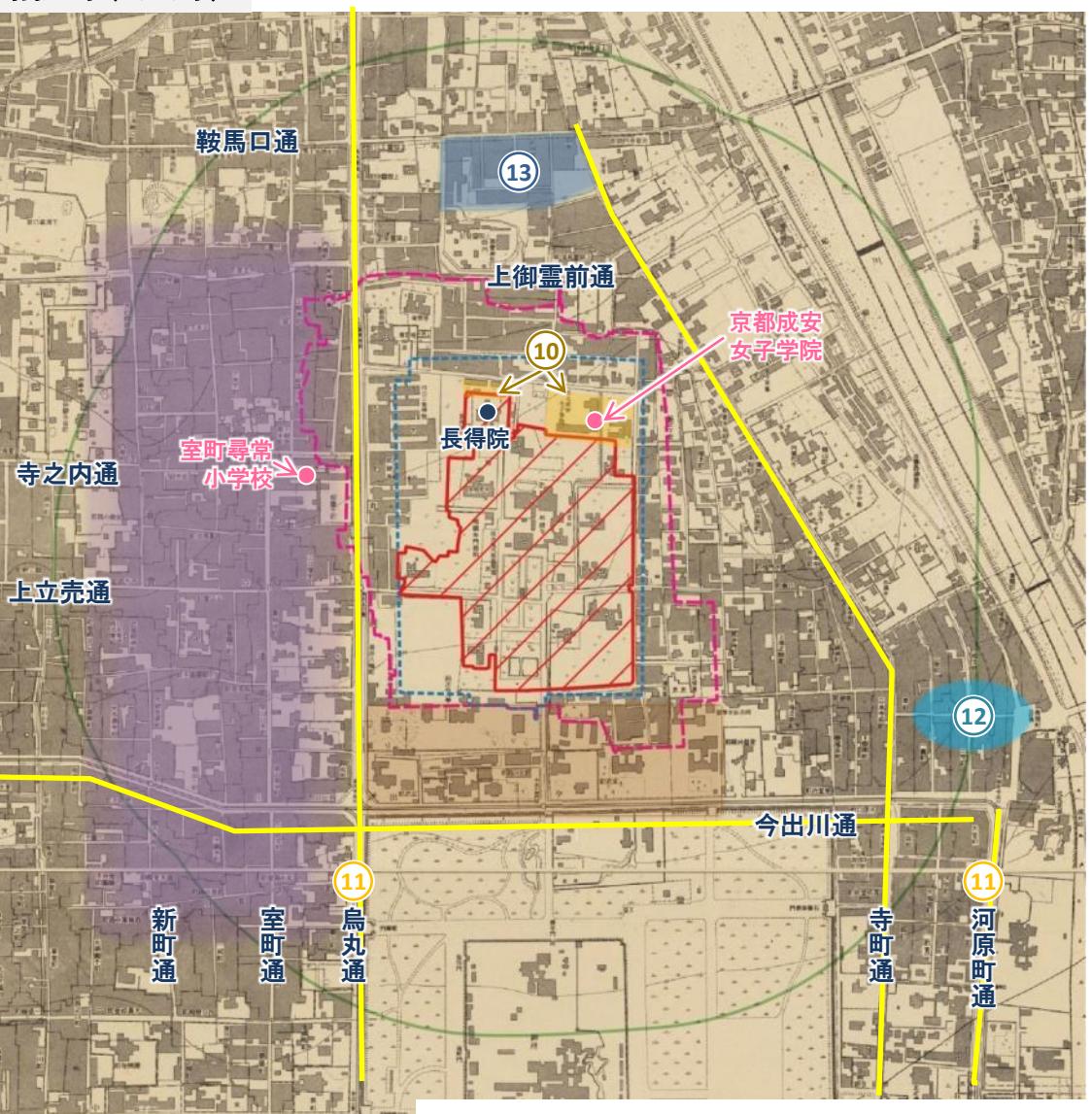
## ⑧ 今出川通

今出川通が直線的に整備され、鉄道が開通したことがわかる。（1912年 今出川線（大宮～烏丸間）営業開始、1917年 今出川線（烏丸～寺町間）営業開始<sup>3)</sup>）

## ⑨ 出町桟形商店街

現在の出町桟形商店街の付近は、この頃まで桟形と呼ばれた問屋街であった。<sup>4)</sup>

## 昭和4年(1929年)



資料: 京都市都市計画基本図(昭和4年)(京都府立総合資料館所蔵)  
画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

## ⑩ 相国寺の旧・境内

相国寺北西部に私立成安女子学院が移転（1927年）<sup>5)</sup>。また長得院の北側にも新たに建築物が建ったことがわかる。

## ⑪ 河原町通・烏丸通

烏丸通の今出川通より北側及び河原町通が拡幅され、鉄道が開通している。（1923年 烏丸線（今出川～烏丸車庫前間）営業開始、1924年 河原町線（今出川～丸太町間）営業開始。<sup>6)</sup>）

## ⑫ 出町桟形商店街

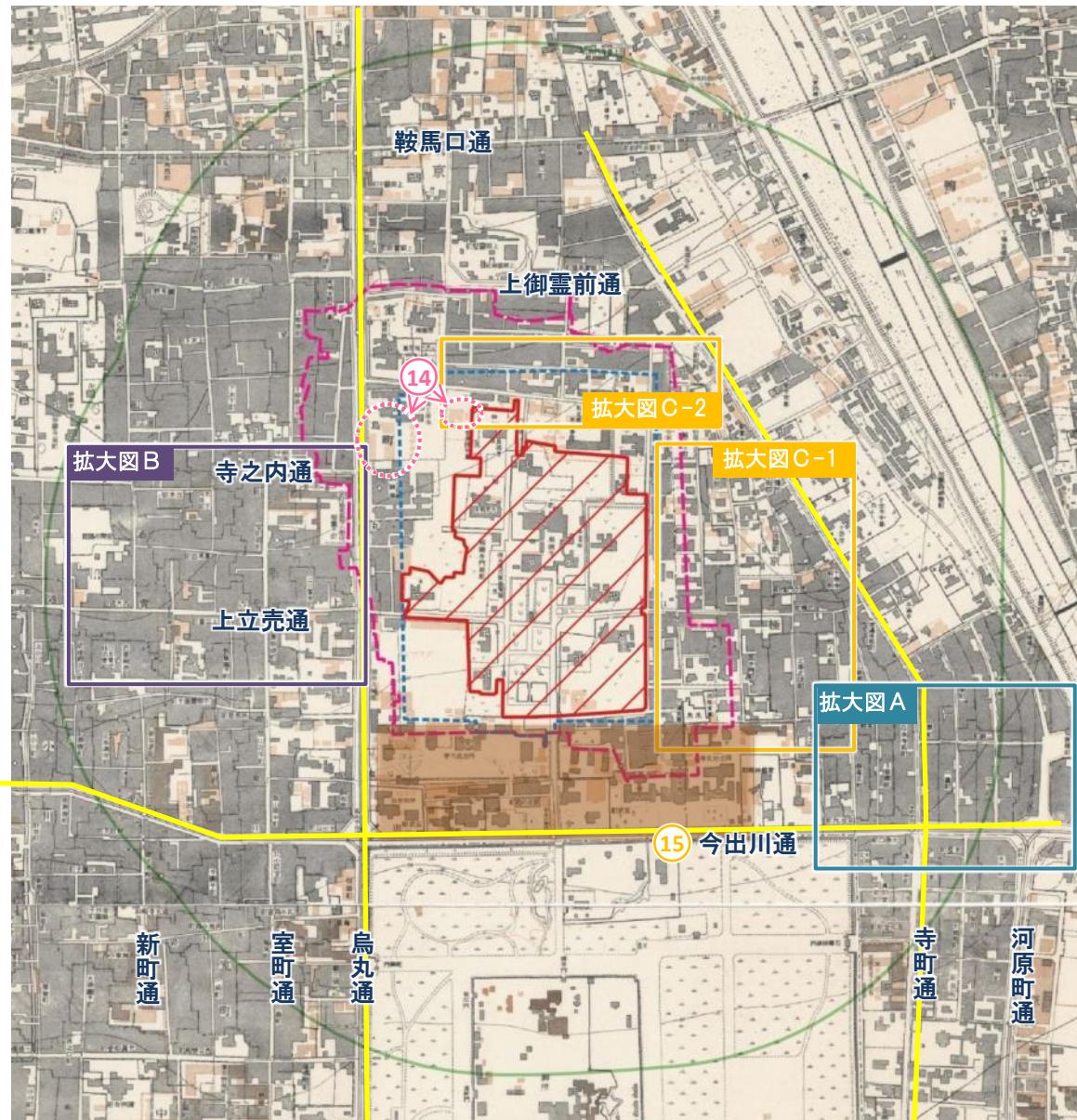
1923年に、現在の出町桟形商店街付近に東北市場ができたといわれている<sup>7)</sup>。

## ⑬ 上御靈神社周辺

上御靈神社の北側に位置する新御靈口町周辺が新たに市街地化し始めている。

# エリアの土地利用の変遷

昭和28年(1953)



昭和10年都市計画図の内容

昭和28年の修正測図

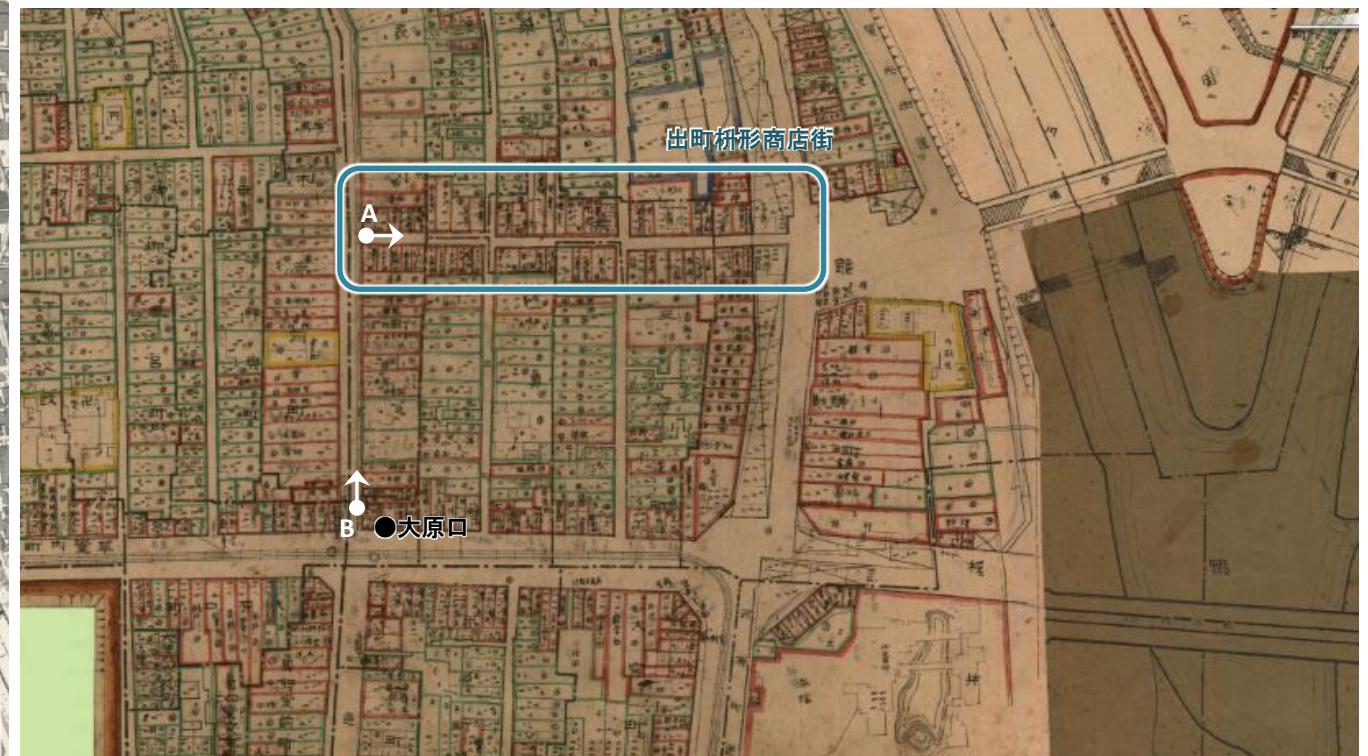
## ⑭ 相国寺の旧・境内、旧・境外

成安女子の校舎が北側の門付近まで増築している。  
この時期になると、相国寺の境内はほぼ現在の形になっている。

## ⑮ 今出川通

今出川通は、御所より東まで拡幅され、賀茂大橋が完成して電鉄の路線が通っている。  
(1931年 賀茂大橋完成<sup>8)</sup>、今出川線（河原町～百万遍）営業開始<sup>9)</sup>)

● 拡大図A<出町桟形商店街>



資料:京都市明細図(昭和26年)(京都府立総合資料館所蔵)  
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

商店街が現在も賑わい、寺町付近にも商店が連なる景観が残る。

A 出町桟形商店街 寺町側入り口



B 寺町通の商店



## ● 拡大図B-1&lt;相国寺西部&gt;

締物業 商店 住宅 寺院



資料:京都市明細図(昭和26年)(京都府立総合資料館所蔵)  
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

新町通には、商店が多く、現在も面影を残している。

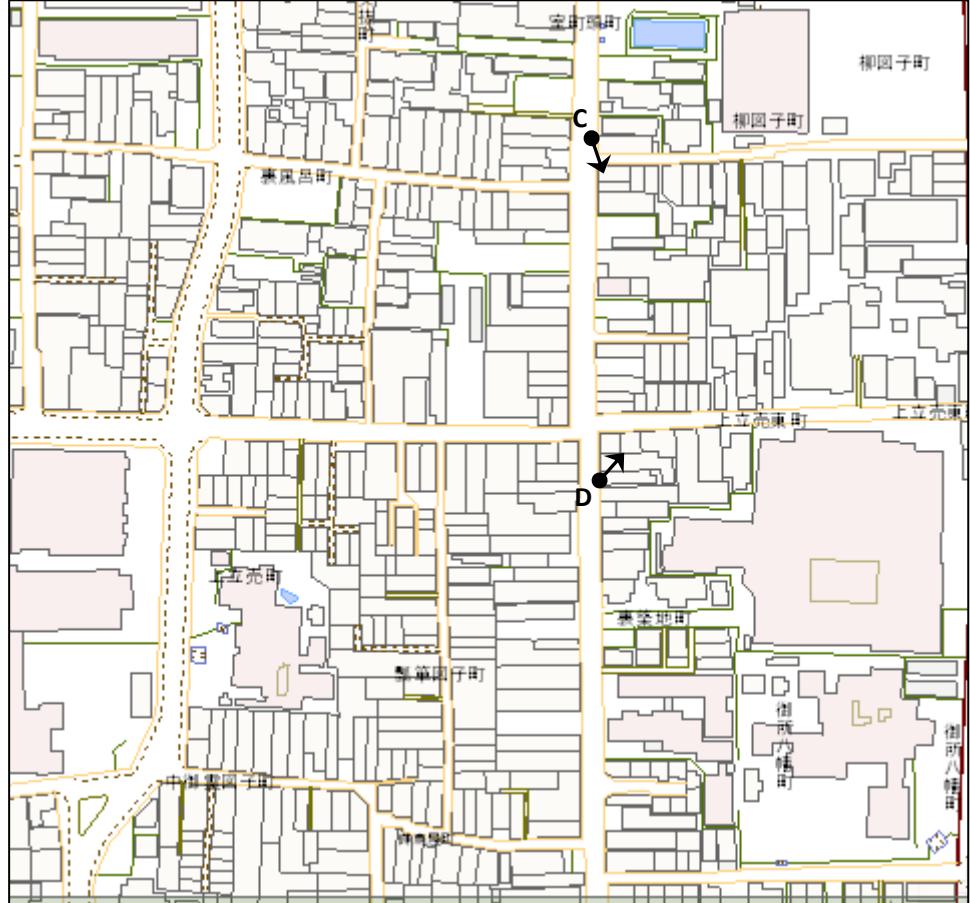
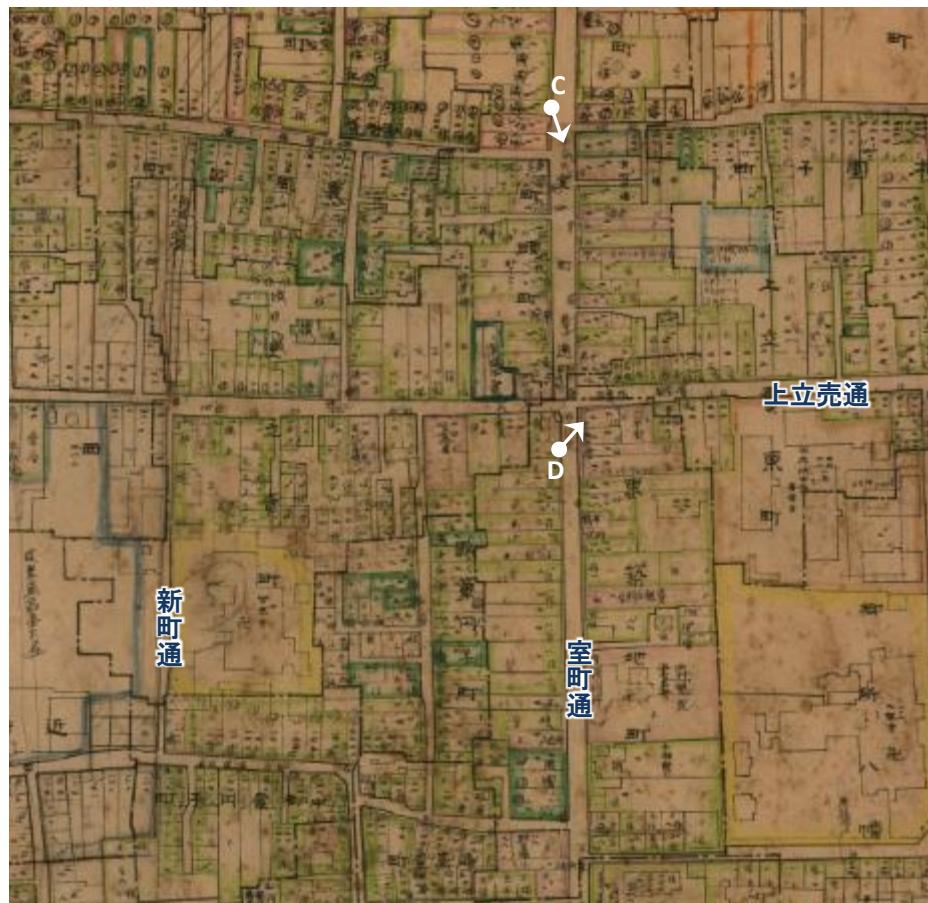
A



B



## ● 拡大図B-2&lt;相国寺西部&gt;



資料:京都市明細図(昭和26年)(京都府立総合資料館所蔵)  
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

上立売通付近には織物業が点在し（濃い緑）、現在も織屋建の面影を残す町屋が見られる。良好な町家も多く見られ、古くからの区画が残る。

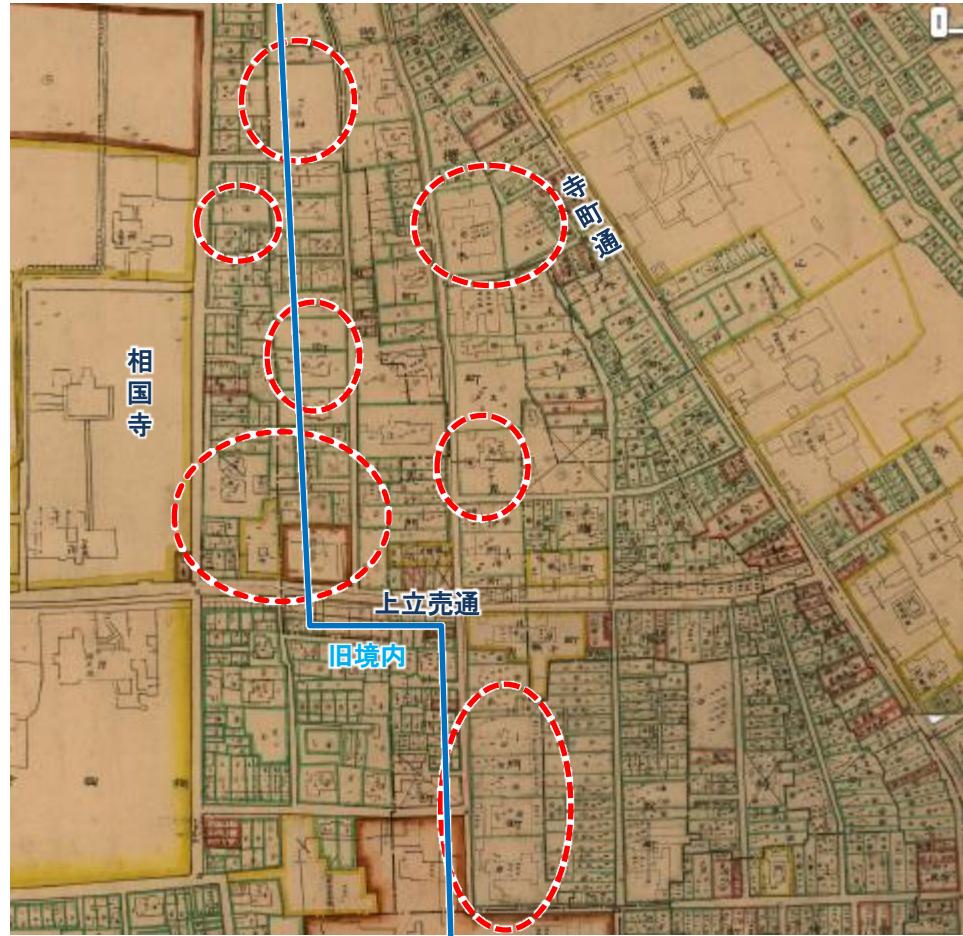
C



D

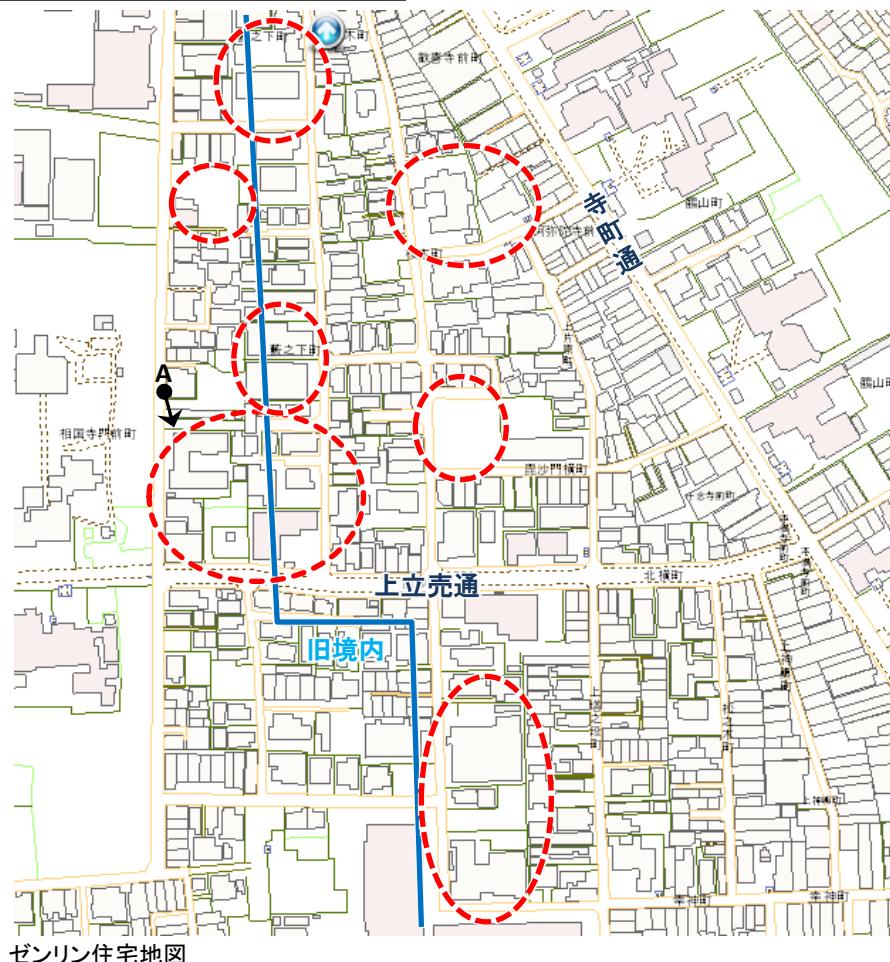


## ● 拡大図C-1&lt;相国寺隣接地（東側）&gt;



資料:京都市明細図(昭和26年)(京都府立総合資料館所蔵)  
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

織物業 商店 住宅 寺院



より早く宅地化したところ（寺町通付近）に比べ、明治16-18年まで境内地であり、宅地化が遅い場所付近の地割は、かつてから大きいものが多く、その面影は現在も一部残る。

A 相国寺東側の地割の大きい建物



## ● 拡大図C-2&lt;相国寺隣接地（北側）&gt;



資料:京都市明細図(昭和26年)  
(京都府立総合資料館所蔵)  
画像:立命館大学アート・リサーチセンター



相国寺に面する一部分では宅地の大きさはあまり変化しておらず、特徴的な景観が残る。

B



# 相国寺境内の歴史的資産と守っていきたい眺め

## 相国寺

臨済宗相国寺派大本山。萬年山と号し、相国承天禪寺という。本尊釈迦如来。脇侍に阿難・迦葉の両尊者、足利義満像を安置する。

永徳2年（1382）室町幕府三代將軍足利義満の発願により幕府（花の御所）の東側に、等持院（現京都市北区）に代わる足利家の家刹（菩提寺）として創建された。以後はほぼ歴代將軍の塔所が造られ、室町幕府の絶大な庇護を受け、五山叢林の枢府の地位を占めた。なかでも義満の塔所鹿苑院は五山の統制機関の僧録司の住院となり、鹿苑僧録と通称され宗教だけでなく文化・政治・経済にも大きな影響力をもつた。<sup>10)</sup>

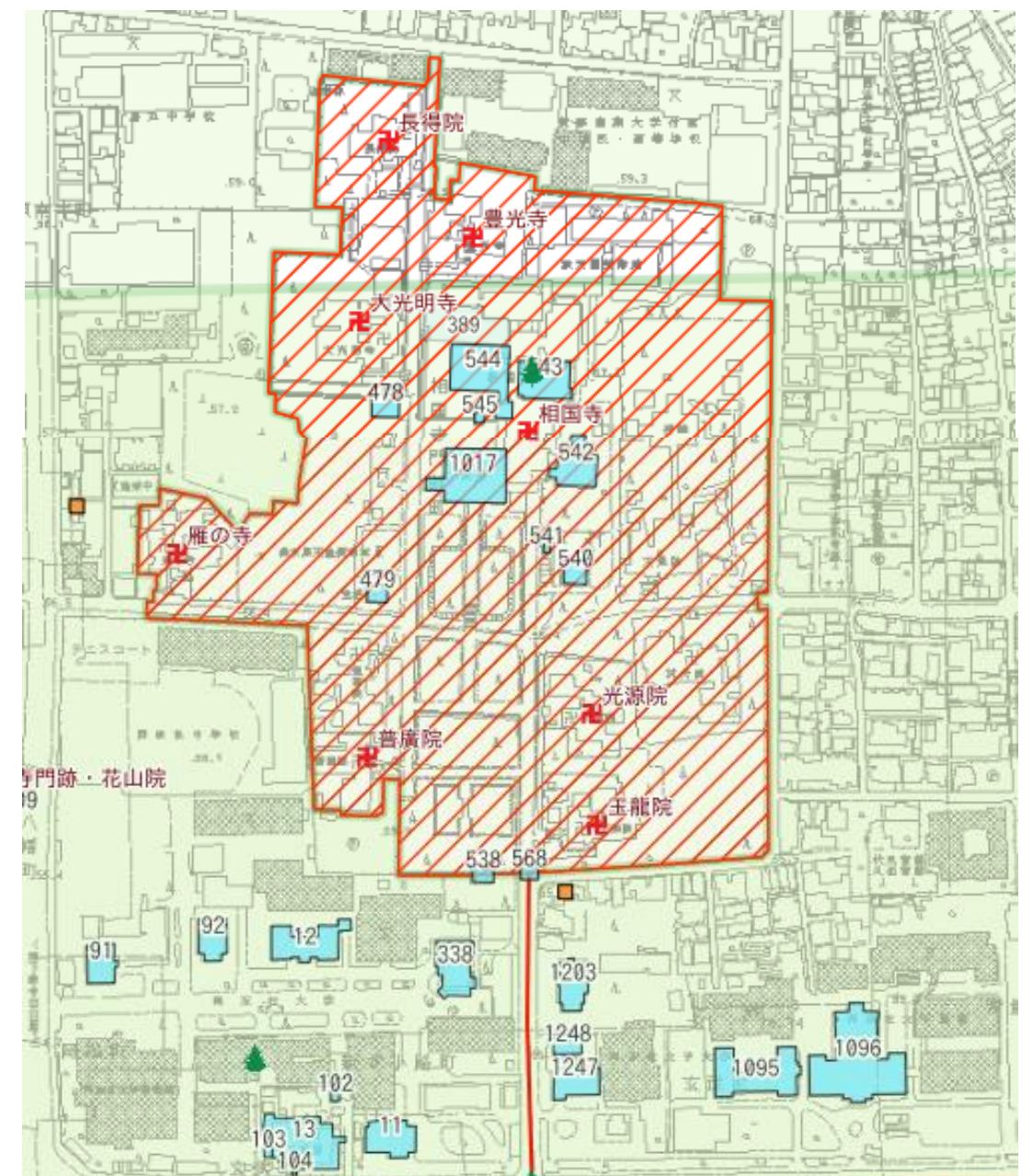
## ■ 文化財

国指定文化財	本堂（法堂） 附玄関廊	1017			
府指定文化財	浴室	478	経蔵	479	勅使門
	鐘楼	540	弁天社	541	開山堂
	庫裏	543	方丈	544	方丈勅使門
	総門	568			
市指定名勝	裏方丈庭園	389			

## ■ 相国境内からの守っていきたい眺め（相国寺へのピアリングより）

### ● 境内から東山への眺め

境内からの守っていきたい眺めとして、特に東山を借景とした眺めがあげられる。



# 相国寺境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(2)

## [国指文化財]



本堂（法堂）附玄関廊

## [府指定文化財]



浴室※



経蔵※



勅使門※



鐘楼※



弁天社※



開山堂※



庫裏※



方丈※



方丈勅使門※



総門※

## [府指定文化財]



裏方丈庭園

## ■ 樹木

アカマツ 上京A04

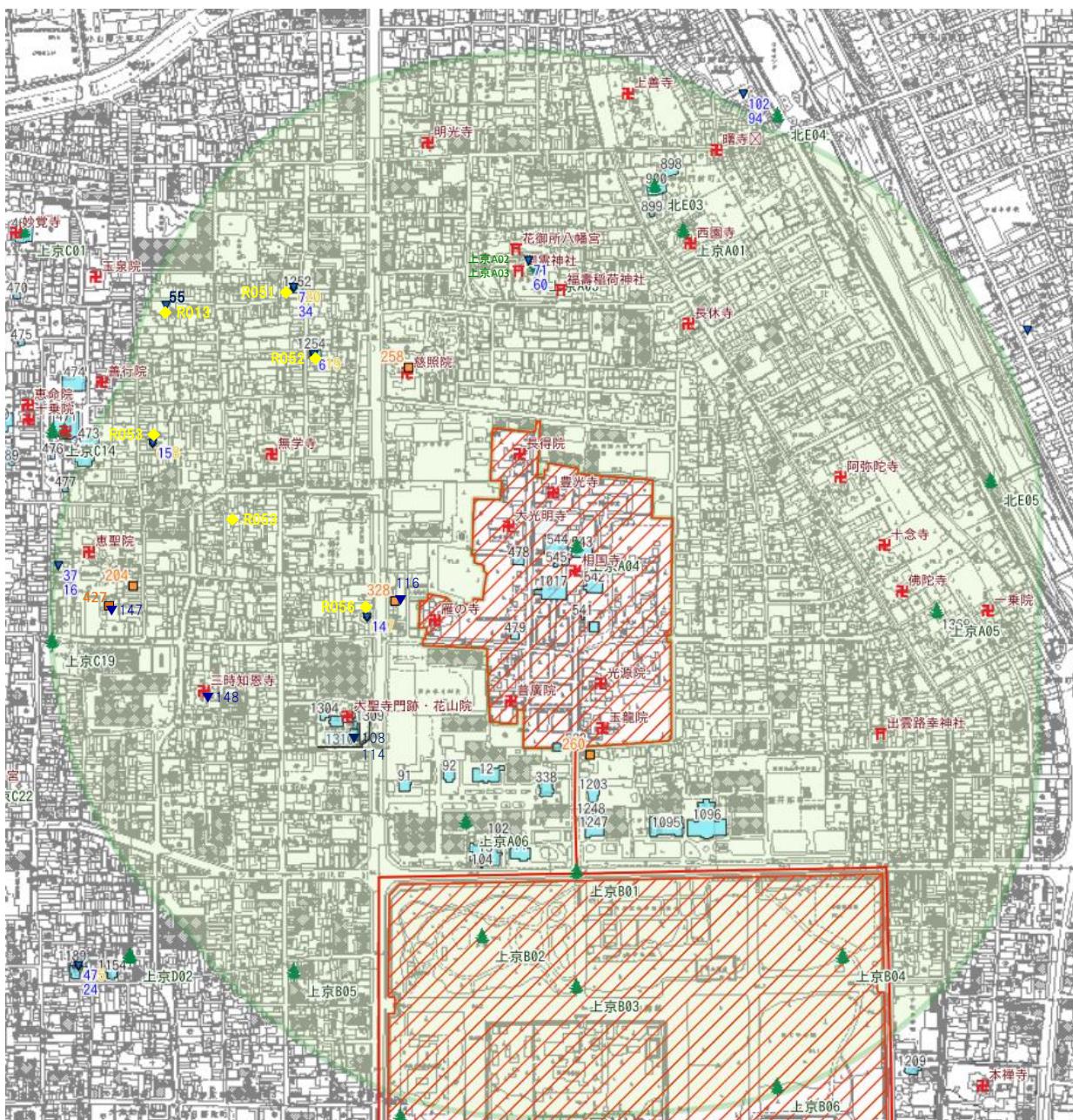
[区民の誇りの木]

1788年の天明大火で焼失した三門と仏殿の跡地にできた林です。アカマツは裸地となった所に最初に根付く性質があります。広いアカマツ林は、相国寺境内の一大景観であるとともに、大都市内のアカマツ林としては貴重な存在もあります。



※写真内○がアカマツ

# 相国寺周辺の主な歴史的資産(1)



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

## 【凡例】

- 建造物・庭園**
- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

- 樹木**
- ▼ 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- ◆ 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等
- 保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m<sup>2</sup>以上の社寺データ

## ■ 相国寺の境外塔頭寺院

現在は普広院・慈照院。豊光寺・大光明寺のほか、大通院・光源院・慈雲院・長得院・瑞春院・玉龍院・林光院・養源院を山内塔頭、北区の鹿苑寺、真如寺、左京区の慈照寺を山外塔頭とする。<sup>11)</sup>

普広院	慈照院	豊光寺	大光明寺	大通院
光源院	慈雲院	長得院	瑞春院	玉龍院
林光院	養源院	鹿苑寺	真如寺	慈照寺



慈雲院



慈照院

相国寺の塔頭。本尊は十一面觀音。足利義政（慈照院）の香華所。国指定重要文化財の紙本墨画達磨像（牧松筆）・灰釉四脚壺・絹本著色二十八部衆像（二幅）・絹本著色地蔵菩薩像（東林筆）・紙本墨書慈照院諒闇摠簿を所蔵。千宗旦の手による茶室がある。<sup>12)</sup>

## ■ 御靈神社

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



▼71▼60

### （指定理由）

- ・鳥丸通りと鴨川に挟まれた地域にあり、旧市街地北端に位置する。周囲は住宅が建ち並ぶ一角にあって、連続した玉垣に沿って高木が鬱蒼と茂り、広い範囲にわたって樹木の連なる緑豊かな景観を保持している。境内の建造物は今も江戸時代に描かれた絵図とほぼ変わらない配置で建ち、伝統的な意匠や技法を今に伝えている。本殿、拝殿、楼門、四脚門等の建造物は、神社の骨格を構成すると同時に、境内の豊かな緑と一緒にして歴史的景観をつくり出しており、地域景観の核として重要な建造物である。
- ・境内の豊かな緑と一緒にして、平安期から続く京都（洛中）で最も古い祭りの一つである御靈祭を、現在も地域住民の協力のもと、現代に継承する重要な建造物であり、祈りと信仰のまち京都の歴史的風致を形成している。

鞍馬口通の南、寺町通の西方に鎮座。境内南に上御靈前通が通る。祭神八所御靈。旧府社。出雲氏の氏寺として平安遷都以前から当地にあったと伝えられる出雲寺（上出雲寺）の鎮守とされる。<sup>13)</sup>

# 相国寺周辺の歴史的資産(2)

## 大聖寺

[国登録文化財(本堂等)、市指定名勝(庭園)、景観重要建造物、歴史的風致形成建造物]

臨済系単立寺院。尼五山の一。聖護院が延宝3年(1675)に類焼し、現在地(京都市左京区)に移った跡地に建てられた。景愛寺(現上京区)開祖の如大無着尼の法統を継ぐ。開基は光厳天皇妃の無相定円禪尼で、貞治7年(1368)光厳天皇の法事を京都天龍寺で行ったとき、春屋妙葩ついて落飾した。足利義満が禪尼を室町御所の岡松殿に迎え、ここに居したのが大聖寺の最初であり、岳松山と号した(平安通志)。

後花園院姫宮らの入寺(親長卿記)があり、寺伝によれば正親町天皇の皇女入室の時、当寺を尼寺第一位とする縁旨が下された。以後皇女の入室が続き門跡寺院とされた。<sup>14)</sup>



(指定理由)

京都御苑の北西、烏丸通沿いにあって、通り沿いに続く築地と表門、築地越しに見える本堂や玄関棟の大屋根、玄関車寄の銅板葺唐破風屋根が見せる堂々たるたたずまいが重厚で落ち着きのある景観を形成している。また、尼門跡筆頭寺院として御寺御所とも称され、御殿前に広がる庭園など尼寺に相応しい優美さを備える貴重な建造物である

▼108▼114



本堂※1  
国登録



宮御殿※1  
国登録



残月亭※1  
国登録



渡り廊下※1  
国登録



同志社 クラーク記念館※1  
重文



同志社 ハリス理化学館※2  
重文



同志社 彰栄館※1  
重文



同志社 礼拝堂※1  
重文



玄関※1  
国登録



表門※1  
国登録



高堀※1  
国登録



東面築地※1  
国登録



同志社 啓明館本館※1  
国登録



同志社 啓明館西蒲※1  
国登録



南面築地※1  
国登録



庭園  
市指定

## 同志社大学・同志社女子大学

[国指定重要文化財(有終館等)、国登録文化財(ジェームズ館等)]

上京区今出川通烏丸東入玄武町にある私立大学。明治8年新島襄が開校した同志社英学校に始まる。大学構内には明治期の洋風建築がのこり、5棟が重要文化財。彰栄館(明治17年完成)は煉瓦造2階建、設計者は米国人宣教師のグリーン。礼拝堂(同19年)は煉瓦造平屋建、設計はグリーン。有終館(旧図書館。同20年)は煉瓦造二階建、設計はグリーン。ハリス理化学館(同23年)は煉瓦造二階建、設計は平安女学院も手掛けた英国人ハンセル。神学館(別名クラーク記念館。同26年)は煉瓦造2階建で鐘楼を有する。設計はドイツ人ゼール。いずれも明治中期の洋風建築の代表作として名高く、また彰栄館は昭和56年、有終館は同51年に外観を保全しつつ内側から補強する試みがなされ、建築工学上の注目を集めた。これらの歴史的建造物を核に形成されたキャンパスは全国でも有数の景観をもつ。<sup>15)</sup>



同志社 有終館※1  
重文



同志社 ハリス理化学館※2  
重文



同志社 彰栄館※1  
重文



同志社 礼拝堂※1  
重文

※1：(画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム(GIS)

※2：(写真提供) 京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

# 相国寺周辺の歴史的資産(3)

## ■ 寺町通



北は鞍馬口通の北区上善寺門前町から、南は五条通の下京区西端詰町まで。一条通以南は平安京の東京極大路に相当。一条通り以北は天正年間(1573～1592年)に開設。豊臣秀吉の年改造政策によって洛中に散在する寺院をこの地に集中させたのでこの名がある。かつては本通の東側に大小の寺院が軒を並べ、寛永期(1624～1644年)には洛中寺院の約3分の1を数えたが、現在ではその数も減少。明治28年京都電鉄株式会社が丸太町通り・二条通間に市街電車を開設し、同34年には今出川通まで延長したが、のち京都市が買収、大正末に廃止した。<sup>16)</sup>

## ■ 寺町通の寺社

### 光明寺



雲祥山と号し、浄土宗。本尊は阿弥陀如来。旧地は不詳だが天正年中(1573-92)現在地に移転したという(蓮門精舎旧詞)。「淨家寺鑑」によれば、鎌倉時代の武将宇都宮弥三郎頼綱が承元2年(1208)勝尾寺(現大阪府箕面市)に法然を訪ね、出家して実信坊蓮生と名乗った、仁治2年(1241)西山の草案で念佛三昧中、虛空に阿弥陀仏如来が影向したので、袈裟を放って抱止めた。これが本尊の阿弥陀仏如来と伝える。江戸時代には毎年4月15日、この「抱止めの如来」の開帳があった。堂宇は天明8年(1788)の大火に類焼し、明治42年(1909)にも本堂を焼失したが(坊目誌)、如来は無傷であったと伝え、無病息災を願う人々の信仰を集める。<sup>17)</sup>

### 十念寺



華宮山と号し、西山浄土宗。本尊阿弥陀仏如来は空海作といい、「雍州府志」は惠心作とする。天文5年(1536)に焼亡、天正19年(1591)当地に移建(坊目誌)、現在の堂宇は延宝・天明の大火後に再建された。本堂には開基真阿像を安置し、一休筆と伝える紙本著仏鬼絵巻1巻(国指定重要文化財、京都国立博物館寄託)、足利將軍諸士念佛講名帳を蔵する。境内には豊臣秀吉に仕えた医師施薬院全宗、儒医曲直瀬道三の墓がある。<sup>18)</sup>

### 仏陀寺



大藏院と号し、西山浄土宗。本尊阿弥陀如来坐像は平安時代の寄木造で、国指定重要文化財。天正19年(1591)現在地に移ったと伝え(山州名跡志)、万治4年(1661)正月・天明8年(1788)正月の大火で類焼し、再建されたという(坊目誌)。<sup>19)</sup>

### 阿弥陀寺



蓮台山と号し、浄土宗。本尊は阿弥陀如来。天正10年(1582)の本能寺の変では信長父子の骨灰を集め、当寺に葬埋したと伝える(信長記・淨家寺鑑)。同15年豊臣秀吉によって現在地に移建され、塔頭12坊を構えた(坊目誌)。延宝・天明の大火にかかったが、再建された。<sup>20)</sup>

## 本満寺



日蓮宗。広布山と号し、本尊十界曼荼羅。寺伝によれば開基は日秀、応永17年(1410)今出川新町(現上京区)の関白近衛道嗣邸に一字を建立したのに始まる。天文元-2年(1532-33)の一一向一揆には日蓮衆徒が参戦したが、本満寺衆徒も加わり、細川晴元から感状(本満寺文書)を与えられている。同八年関白近衛尚通が現在地に移建、後奈良天皇は勅願寺とした。宝暦元年(1751)当寺の日鳳が將軍徳川義正の病氣平癒を祈り、その後徳川家の祈願所となり、30の塔頭を有したという(坊目誌)。万治4年(1661)・宝永5年(1708)・天明8年(1788)と類焼したが、その都度再興を重ね、現在、法泉院、実泉院、一乘院、守玄院の塔頭がある。<sup>21)</sup>

# 相国寺周辺のその他の歴史的資産(1)

## ■ 景観上重要な建築物、庭園等

### 生谷邸(生谷敬之助)

[歴史的意匠建造物、景観重要建造物・歴史的風致形成建造物、国登録文化財(主屋)]



主屋

◆R051 ▼7 ▼34

#### (指定理由)

- ・主屋が明治後期の町家として、内外部ともに形態意匠がよく保存されており、上手（北側）に設置される板塀とともに、通り景観を構成する重要な要素となる建造物である。

### 勝間邸



◆R056 ▼14

#### (指定理由)

- ・主屋と土蔵は内外部共に良好に維持された質の高い建造物で、京都を代表する近代建築である同志社の学舎と共に、近代の風景を烏丸通沿いに残す貴重な建造物である。また、建造物と同様に良好に維持された庭は、建造物の価値を高めるだけでなく、堀越しに伺える植栽が建造物と共に、良好な通り景観の形成に寄与している。

### 松居邸(旧杉尾家)

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



▼37 ▼16

#### (指定理由)

- ・主屋は昭和初期の京町家の表構えを維持しており、一部の改修は見られるが、状態も良く、西陣地区の景観を良好に継承する貴重な建造物である。
- ・西陣地区の町家の伝統的な意匠の特徴を残し、それを地域の伝統産業と共に現代に伝える貴重な建造物である。

### 林孝太郎造酢(京西陣孝太郎の酢)

[歴史的意匠建造物、景観重要建造物]



◆R053 ▼15

#### (指定理由)

- ・格子で覆われた外観は通りの景観を良好に形成する重要な要素である。また、歴史的な建造物としての外観を維持しながらも、製造業として要求される現代的な店舗機能を満たすように改修された例としても評価できる。

### 中川織物

[歴史的風致形成建造物]



▼55

#### (指定理由)

- ・生業として今も続く西陣織の織屋の伝統と、暮らしの場である京町家の伝統を歴史的意匠により現代に継承する重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都及び暮らしに息づくハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

### 三時知恩寺

[歴史的風致形成建造物]



▼148

#### (指定理由)

- ・「入江御所」と呼ばれた尼門跡寺院で、三時知恩寺の寺号を持つ。蓬莱の庭をのぞむ御殿（旧書院）は、桃園天皇女御の御殿を賜つたもので、皇室にまつわる什宝を受け継ぐなど、皇室との深い縁とその文化を伝える。

### 中村邸(旧中村万治郎邸)

[国登録文化財、歴史的意匠建造物、景観重要建造物]



◆R052 ▼6

#### (指定理由)

- ・主屋が明治後期の表屋造りの典型例として貴重であり、加えて1、2階の座敷廻りには吟味された部材による丁寧な造作や良質な意匠が維持されており、2階建ての表蔵も含めて、西陣の商屋の景観を良好に継承する貴重な建造物である。

# 相国寺周辺のその他の歴史的資産(2)

## ■ 景観上重要な建築物、庭園等

### 慈照院

相国寺の塔頭で、桂宮家の学問所として建築された書院（棲碧軒）、千宗旦によって作られた茶室（頤神室）や樹齢300年を超える陸船松と称されるクロマツが植わる枯山水式庭園が配されている。

※ 常時公開しておりません。



■ 258



[京都を彩る建物や庭園]

### 湯本家

明治期の建築と推定される平家建ての木造建物である。歴史学者湯本文彦が終の住家としたことから、同人に関する研究資料等が多く残されている。



■ 260



[京都を彩る建物や庭園]

### be 京都

空き家から貸しギャラリー兼イベントスペースとして再生され、「美しい“美”的京都がここにある」という思いをこめ命名された。江戸期からの歴史を持つ京町家であり、隣接する寺院の山門と連続した良好な景観を形成している。



■ 204



[京都を彩る建物や庭園]

### 光照院

長い歴史を持つ尼門跡寺院。延文元年、室町一条に創建され、応仁の乱の後、現在地へ移った。江戸時代、光格天皇から「常盤御所」の称号を賜った。



▲ 147 ■ 427



[歴史的風致形成建造物、京都を彩る建物や庭園]

### 太田家(旧太田喜二郎アトリエ)、太田喜次郎邸

[国指定文化財、景観重要建造物、京都を彩る建物や庭園]

大正13年(1924)、洋画家太田喜二郎の住宅として建てられた。設計は藤井厚二。アトリエは太田自身の設計で、光の取り入れ方に画家のこだわりがうかがえる。居間やアトリエは建築当時のままである。



▼ 116 ■ 328



### [国指定重要文化財]



冷泉家住宅  
屋敷及び台所※  
重文



冷泉家住宅  
御文庫※  
重文



冷泉家住宅  
台所藏※  
重文



冷泉家住宅  
表門※  
重文

### [府指定文化財]



妙顕寺  
三菩薩堂※



妙顕寺  
鬼子母神堂※



本満寺蓮乗院  
靈屋※  
府指定

### [市指定文化財]



天寧寺(附 中門1棟・棟札  
1枚・祈祷札1枚)・書院及  
び表門



今出川通寺町東入表町  
(大原口)道標  
市登録

### [市登録史跡]

※：(画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム(GIS)

南北朝時代、後伏見天皇の皇女進子内親王により創設され、「常盤御所」の称号を持つ尼門跡寺院である。境内には、昭和大礼に饗宴場として用いられていた建物の一部を移築した常盤会館や、京都御所の旧桂宮御殿の一部を移築したと伝わる御殿を有し、皇室との深い縁とその文化を伝える。

# 相国寺周辺のその他の歴史的資産(3)

## ■ 樹木

名称	保存樹	天然記念物	区民の誇りの木
カヤ：天寧寺		指定あり	 北E03
アキニレ：加茂街道			 北E05
クロガネモチ：西園寺			 上京A01
クロマツ：上御靈神社			 上京A02
クスノキ：上御靈神社			 上京A03
ソメイヨシノ：本満寺			 上京A05
クスノキ：同志社大学			 上京A06
タイワンフウ：今出川御門付近			 上京B01
シダレザクラ：近衛邸跡			 上京B02
フジ：今出川御門付近			 上京B03
ケヤキ：石薬師御門付近			 上京B04
イチョウ：乾御門付近			 上京B05

# 景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

## 相国寺風致地区

### 【景観特性】

#### ●境内や参道・沿道の豊かな緑

相国寺境内及び参道沿道から構成され、相国寺境内は豊かな樹木が保全されており、参道沿道においても、緑連なる空間が形成されている。（→11、12）

#### ●境内のオープンスペースと落ち着いた環境

京都御所の北側に位置する相国寺の境内、参道及び京都御所の緑と一体をなす緑地空間は、市街地の貴重なオープンスペースとなっている。相国寺の広々とした境内は、禅院らしい厳粛な雰囲気に包まれ、東に鴨川を越えて遙か東山連峰を望み、相国寺近傍は境内地と学校施設により構成され、落ち着いた環境を形成している。（→13）



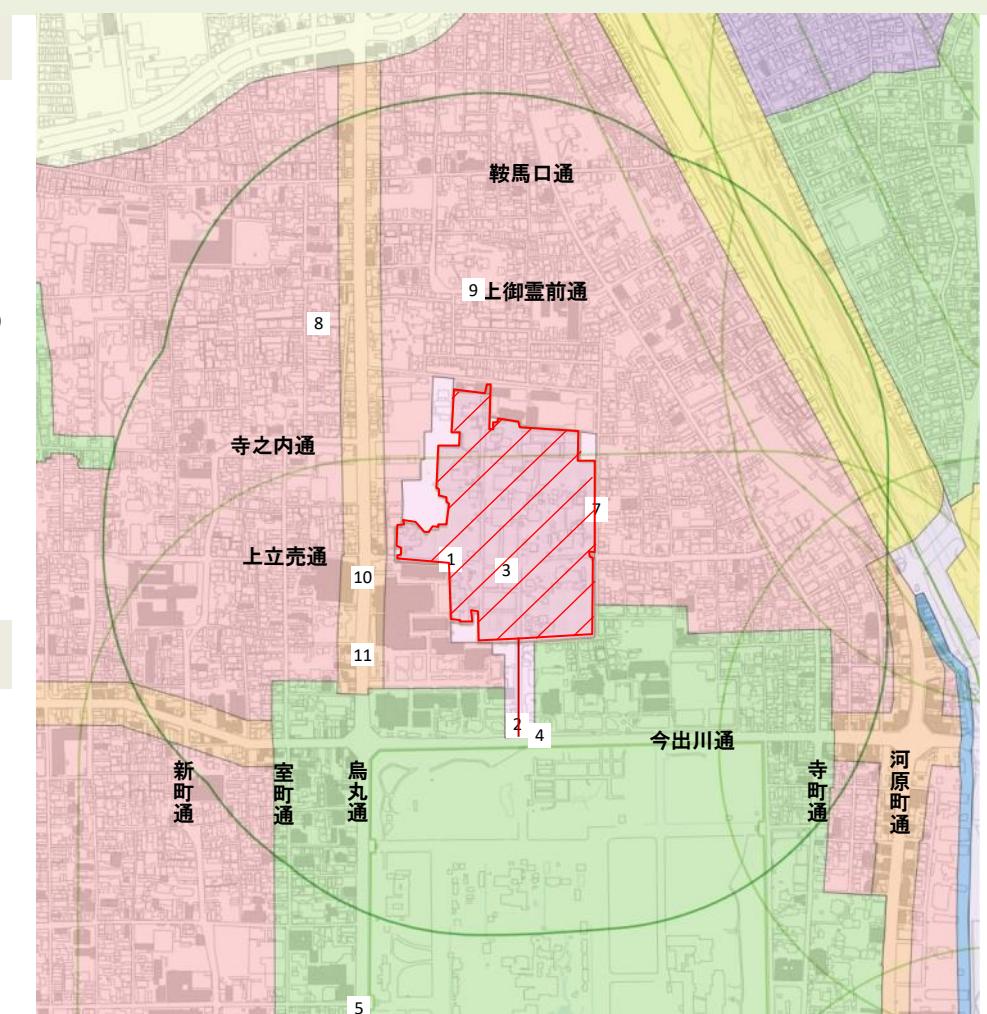
1) 瑞春院南側(東向き)



2) 参道(今出川通から北向き)



3) 林光院と東山の眺望



## 歴史遺産型美観地区

### 【景観特性】

#### ●御所地域一帯の緑と格調ある建築物の調和

御所の緑が景観上重要な構成要素となっている。御所を取り囲む鳥丸通、丸太町通、今出川通及び寺町通の沿道の敷地には、格調ある建築物と手入れの行き届いた植栽が施され、まとまりのある景観を形成しており、これらは、御所の緑と呼応して良好な景観を形成している。

4) 今出川通  
植栽が施されたまとまりのある景觀

5) 鳥丸通



6) 寺町通→

### 【景観形成の方針】

#### ●世界遺産等の歴史的資産や伝統的な町並み景観との調和

建築物の高さを抑えた中低層の建築物からなる町並み景観を形成する。

#### ●御所を取り囲む通りの沿道のまとまりある景観と御所の緑が呼応した良好な景観の形成

空地を十分に設け、生垣等を設けるようにする等、緑豊かな景観の保全、形成を図る。

建築物については、勾配屋根に日本瓦ぶき等とする等、和風意匠を探り入れることにより、

## 旧市街地型美観地区（御所周辺）

### 【景観特性】

#### ●緑豊かな御所の周囲を取り囲む地域

御所北側の鳥丸通、紫明通及び賀茂川に囲まれた地域には、同志社大学や相国寺が、旧市街地景観を色濃く残し、これらの近代建築物や寺院の堂宇が景観に重厚さを与えている。

この地域の各所から、御所や相国寺の豊かな緑を垣間見ることができる。



7) 相国寺東側から堀越しに相国寺の緑が見える



8) 中村治男家住宅主屋



9) 上御靈前通沿いの住宅

### 【景観形成の方針】

#### ●京町家を残す趣のある旧市街地にありながら、現代の都市活動が展開する地区

京町家を中心とした和風を基調とした町並みを尊重しつつ、現代建築物が共存する景観を形成する。

#### ●御所の緑との調和と落ち着きのある町並み景観の形成

和風基調の外観とし、落ち着きのある町並み景観を形成するとともに、御所の緑と調和するよう積極的に敷地内の緑化を図る。

また、現代建築物については、周囲の歴史的建造物や京町家に調和した形態意匠とすることにより、落ち着きのある町並み景観を保全する。

## 沿道型美観形成地区

### 【景観形成の方針】

#### ●京都にふさわしい新たなデザイン建築物を誘導

歴史的市街地内にあるが、土地利用上、中高層建築物が多く、京都にふさわしい新たなデザイン建築物を誘導することにより、良好な沿道の町並み景観を形成する

#### ●沿道の町並みの連続性と調和に配慮した良好な景観の創出

歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断する事がないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。



10) 鳥丸通(南向き)



11) 鳥丸通(北向き)

### 【凡例】

#### 眺望景観保全区域

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

#### 建造物修景地区

- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

#### その他

- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

#### 景観地区

- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区 一般地区
- 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

## (資料)

- 1) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.851
- 2) 京都市立烏丸中学校HP
- 3) 京都市交通局 総務課. 株式会社毎日写真ニュースサービス社. さよなら京都市電. 京都市交通局. 1978. p.214
- 4) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.851
- 5) 同上. p.540
- 6) 京都市交通局 総務課. 株式会社毎日写真ニュースサービス社. さよなら京都市電. 京都市交通局. 1978. p.214
- 7) 上京区ウェブページ「学区案内／京極学区（きょうごく）※上京区120周年記念誌」. 2000.3.31
- 8) 京都市建設局橋梁健全推進課. 京の橋しるべ 第8号. 2015. p.3
- 9) 京都市交通局 総務課、株式会社毎日写真ニュースサービス社. さよなら京都市電. 京都市交通局. 1978. p.215
- 10) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.342
- 11) 同上. p.245
- 12) 同上. p.245
- 13) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.196
- 14) 同上. p.447
- 15) 同上. p.653、p.654
- 16) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.640
- 17) 同上. p.246
- 18) 同上. p.328
- 19) 同上. p.597
- 20) 同上. p.50
- 21) 同上. p.649